

### 第3回 小中学校の接続・連携に関する調査研究委員会の概要

◆日時 平成30年2月7日(水曜日) 午後16時00分～

◆場所 上杉分庁舎 12階 第1会議室

◆出席委員

氏名(敬称略)	所属 職名	備考
本 岡 愛 実	宮城教育大学 教職大学院 教授	委員長
熊 谷 和 彦	東北福祉大学 教育学部 准教授	副委員長
佐々木 静 輝	仙台市立三条中学校 校長	
白 井 剛 次	仙台市立四郎丸小学校 校長	
永 見 幸 久	仙台市立柳生中学校 PTA会長 仙台市 PTA協議会 副会長	
高 城 み さ	仙台市立鶴が丘小学校 PTA会長 仙台市 PTA協議会 副会長	
佐 藤 慶 子	住吉台中学校区 学校支援地域本部 コンパス住吉台 スーパーバイザー	
安 藤 直 美	愛子・錦ヶ丘小学校 学校支援地域本部 めですこ SCHOOL スーパーバイザー	

◆配布資料

- ・平成29年度 第12回小中一貫教育全国サミット in 京都 視察報告(資料1)
- ・平成29年度 仙台市長中学校における小中連携についての実態調査(資料2)
- ・小中学校における接続・連携に関する状況調査 調査票(資料3)
- ・小中連携だより(資料4)

◆会議の概要

1 開会 午後4時00分 (司会:蓮沼主任)

2 あいさつ 学校教育部参事 佐藤淳一

3 協議・報告

(1) 視察報告

①小中一貫サミット(京都市)

- ・まとめを見ていると小中一貫に変わったことによる子供の変容はなかったか。もっと子供たちの変容が感じられると良い。(白井委員)
- ・事例発表では見られなかったが、英語の授業の教師と生徒のやり取りを見ると教育効果は高いと感じた。(西指導主事)
- ・読解科に興味がある。どのような時数で行っているのか。(熊谷委員)
- ・小学校は週に1時間程度、中学校は総合学習で読解科を行っている。(西指導主事)
- ・資料に学校運営協議会の例とあるが、どのような協議会か。(永見委員)
- ・校長が示す学校の経営方針に対して協議する会議であり、地域代表、保護者代表、学識経験者等で組織する。(蓮沼主任)
- ・学校運営協議会を設置しているところがコミュニティースクールである。(佐藤参事)
- ・小中一貫教育が進んでくると、一つの学校ではなく、複数の小学校、中学校で学校運営協議会を設置することがH29.3の地公行法の改正により、可能となった。(春日室長)
- ・大都市特有の取組の事例等があったか。(佐々木委員)
- ・複雑な通学区域を持った中学校区では小中一貫教育は難しいが、「できないではなく」、「何ができるかを考えて」校長の強いリーダーシップで引っ張っていくことが必要である。それを束ねる教育委員会が強いリーダーシップを発揮する必要があるとのことであった。

(2) 協議

課題1「平成29年度 仙台市長中学校における小中連携についての実態調査」について

- ①児童生徒の交流における連携について
- ②学習面での連携について
- ③生徒指導面の連携について
- ④地域を交えた連携について
- ⑤その他の連携について

- ・ 交流の場合、学校の誰が中心に行っているのか。(本図委員長)
- ・ 小中連携担当や教頭、教務が中心となって活動している。(丸山主任)
- ・ 行事の完成にいたるプロセスでの交流・参加というのはあるのか。(熊谷委員)
- ・ 中学校の合唱コンクールのリハーサル等に小学生が参加することがある。中学生にとっては緊張感を持った練習となり、素敵な歌声で小学生にとっては中学生が憧れの対象となる。(丸山主任)
- ・ 児童生徒の移動に関して、学校間の事務連絡等はどうに行われているのか。(本図委員長)
- ・ 児童生徒の移動に関しては、児童生徒の安全を考え、派遣依頼や文書等のやり取りは不測の事態も想定し、徹底して行っている。(白井委員)
- ・ 三条中学校区では3か月に1回、校長会を行い、情報を共有する。それを担当レベルで要項を作成し、職員会議の中で全職員に共有を図っている。移動の人員が不足する時は学校支援地域本部に協力を依頼し、みんなを巻き込みながら行っている。(佐々木委員)
- ・ 手続きは必要であるが、簡素化できるように、ルーティーン化してきているということが大事である。(本図委員)
- ・ 児童交流の中で、陸上大会の練習など交流活動の内容によって、経年経過を見ると増えたり、減ったりしているがどのようなことが要因と考えているか。(白井委員)
- ・ 9月に小学校の陸上大会があるが、9月は文化祭や期末考査で日程調整ができないことが原因である。また、天候が不順な年があり、できなかった年があった。(佐々木委員)
- ・ 本校の学校区では、年度ごとに対応が小中学校で、お互いにズレが出てしまっているところがあることが課題である。(白井委員)
- ・ アンケート結果に記載されているのは、学校主導のものだけなのか、学校支援地域本部がかかわったものも入っていると考えてよいか。(佐藤委員)
- ・ 学校主体のものと、学校支援地域本部が関わったものもすべて入っていると考えている。(丸山主任)
- ・ 同じ活動を行っても、小学校と中学校で捉え方に差がある場合があるようである。学校支援地域本部でコーディネートする立場として、もっとPRしていかなければならないと感じた。(佐藤委員)
- ・ 中1ギャップの緩和に繋がっているとか、教職員間の相互理解に効果があるといった、大人が目線での意識は分かった。子供の意識、小中連携を通してこんなところが分かった、良かった、こんな意欲がわいた、こんなところが嫌だったといったような観点はまだやっていない。子供目線での調査も欲しい。(熊谷委員)
- ・ 一小一中のように連携しやすい学校区と一小二中、一小三中等連携しにくいと思われる学校区でアンケート結果に、どのような違いが出るか、事務局としてはどのように感じているか。(本図委員長)
- ・ 連携しやすい学校区と連携しにくい学校区で比較すると、連携回数に大きな優位性は見られなかった。学校区として、連携しやすさよりも必要性を感じて、連携しようとしているかどうか大きいと感じている。(丸山主任)
- ・ 連携しにくい学校区を分析した結果では、連携した中でも成果となっている点はどんなところか。(本図委員長)
- ・ 連携しやすい学校区では移動距離等も近いことから、児童交流の回数が比較的多くなっている。連携しにくい学校区では、児童交流の回数はあまり多くないが、学習面など教員間での連携が進んでいる。(丸山主任)
- ・ 学校グループごとに、もう少し分析を進めることが必要である。小中連携を仙台市一律で行う事は先生方の必要性も違うので難しい。やりやすい学校区は交流を進め、やりにくいところは学習面や生徒指導面で連携しておくその後々かなり効果があるなど、先生方が大変だけど行っている面もあるので、数の多可ではなく、質のところで見ることも必要である。例えば、いじめの未然防止は数の多可ではなく、質のところで見ながら事例を掘り下げることも必要である。(本図委員長)
- ・ 子供の成長と言う点でどうなのか、グループ分けの点で掘り下げていくとどうなのかを再度検討いただくこととする。(本図委員長)

課題2「政令市に依頼する調査事項」について

- ・ 小中一貫の成果の部分で、保護者と地域の意識についての項目があると良い。また、生徒指導面の主語は先生である。子どもたち自信がどう思っているのか、どう感じているのかがある良い。現在に至るまでの課題であったり、その解決方法だったり、予防策だったりがあるとより具体的になってくる。(安藤委員)
- ・ 自由記述の部分は諸課題が各校の実情によって異なるので、政令市教育委員会としては書きにくい。政令市のいくつかの事例校、代表例についてで良いのではないかと。(白井委員)
- ・ 文部科学省の過去の調査も調べていただき、同じような設問がないように再度検討いただき、調査事項を精査していただくようお願いする。(本図委員長)
- ・ 小中連携だよりバトンパスの子供たちの感想を見ると、子供たちの気持ちの部分が見えてくる。本校でも中学生が小学生に算数を夏休みに教えていた様子を見ると子供たちはとっても嬉しそうであった。小中連携サミットやアンケートの中にも子供たちの声があると良かった。(高城委員)
- ・ 小中連携を発信する際には「子供の成長」ということをしっかり押さえていきたいと感じている。(本図委員長)

#### 4 事務連絡

- ・ 次回日程は年度明けに調整を行う。

#### 5 閉会 午後5時30分

◆マスコミ：なし

◆傍聴：なし

平成30年 6月 5日 署名委員 佐々木 静輝 